

伊丹市文化財ボランティアの会

火曜会通信

第84号

発行日：令和2年 2月 1日

発 行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1-1-1

伊丹市教育委員会事務局内

令和はじめての 新春を迎えて

会長 内田 裏

あけましておめでとうござります。

皆様には穏やかな良い年を迎えたことと思います。

昨年は、当会の行事にご協力いただき、ありがとうございました。

本年もよろしくお願ひいたします。

昨年は、新しい天皇の即位、ラグビーのワールド大会、東京オリンピック前年、環境問題(温暖化など)、大雨・台風による被害、高齢者の自動車運転などが話題になった年でもありました。

社会の変化が大きく、環境が変わりつつあります。定年の延長、働き方改革など身近なところでも、変化が現れてきます。

みんなで工夫し、お互いに協力し、解決し、行動したいと思います。

今年は、阪神・淡路大震災から25年になります。

日頃から「健康第一、安全第一」でおねがいします。



年男・年女

7回目の子年を迎えて



山田 稔

60才で退職する時、もう働くのは止めと決めた。残りの人生25年、好きに生きようと決め外国旅行、登山、スキーといろいろやった。さすがに、それだけでは時間が埋まらないので、自然保護活動にも手を出した。

予定の75才を過ぎてもまだお迎えが来る気配はない。しかし、気だけ若ぶっても足腰は衰える、腰痛は出るなど自由が利かない。その日暮らしで7回目の子年が回ってきてしまった。

いまさらこの先の予定を立てても実行出来る保証はない。かといって今はやりの終活をやる気にもならない。この先も出たとこ勝負で生きて行くしかないのかな。

年女を迎えて

丹野 順子

自分では今までとそんなに変わっていないつもりでいるのに、少し長く歩くと膝が痛んでみたり、今までの距離では文字が見えづらかったり、気が付かぬ間に徐々に衰えが出てきます。また高齢者運転による事故では、ドライバーと同じ位の年齢だったりして、自転車の運転に気を付けねばと、思いを新たにしています。

【ボランティアガイドの案内】 伊丹市文化財ボランティアの会では、旧岡田家・

石橋家や郷町内・旧西国街道など、市内外から訪問される人たちに文化財のガイドを行っています。市内の史跡・文化財のガイドのお問い合わせは、伊丹市教育委員会事務局内博物館（文化財担当）までお願いします。（☎：072-784-8090）

この前テレビで、自分の利き手でない方の手でも歯磨きをすると脳の違う場所が活性化して、アルツハイマーの予防になると言っていたので試しています。左手はビックリするほど磨くのが下手で、ブラシをうまく動かせません。

11歳になった飼い犬の世話をちゃんとやりきるのを目標に、動ける体と使える頭でいたいと思っています。

これからもよろしくお願ひ致します。

年男を迎えて

足立 繁

19期生で、入会5年目72歳になります。私は根がズボラなもので、火曜会通信への寄稿は入会時の自己紹介以来かと思います。いつ

も、会の運営などに非協力的な事ばかりで恐縮のかぎりです。

今回、年男にあたっての粹なお話も思い浮かびませんが、『謎かけ』をひとつ、披露させていただきます。

「村重や光秀」とかけて、「こどもが新しく、柵なしベッドで寝た時」とときます。

その心はというと、「楽しい夢を見て、寝返つて、あとは転落」

チャンチャン！！

本年もドウゾよろしくお願ひいたします。



文化財保護啓発事業・市民ガイド 惣構南部の高低差を体験

市民ガイドに先立って、10月8日の定例会において、松田副会長が「惣構と南部の地域」の題目で講演され、今回訪問する箇所を詳しく解説されました。

※講演の資料をホームページ「自由研究」にアップしています。

朝は少し寒かったが絶好の秋日和の11月9日(土)カリヨン前に集合し、伊丹市立博物館の中畔館長のオープニング挨拶の後歴史散歩が始まった。惣構南部の高低差を体験という少し専門的な題名であったが、一般参加者15名と会員5名の計20名が集まつた。

1. 有岡城跡主郭部

有岡城の地形的な特徴は段丘の上に構築され、東側は猪名川の湿地帯で防御された堅固な城であった。明治時代鉄道が引かれるが郷町東側



の湿地帯しか適地が無かつたため、城跡の丘陵を取り崩し、湿地帯の盛土に利用したものである。

2. 石造地蔵菩薩立像

JR伊丹駅の跨線橋から駅東側のロータリーにある地蔵菩薩像へ。この菩薩は旧国鉄福知山線複線電化の工事の際地中から発見されたものである。

長い間地中にあったため風化も進まず、温かな顔や袈裟の写実的な姿を今もそのまま伝えている。地元自治会の人達が覆屋を作り管理されている。

3. 猪名寺井と記念碑

猪名寺井は下市場・上外崎・外崎・高畠の伊丹台地の下の4箇村と猪名寺・清水の尼崎の2箇村の農業用水路である。旧国鉄伊丹駅と駄六川の改修により取水口は現在の位置に移設された。駄六川の河床が掘り下げられたため、現在は地下水をポンプで汲み上げ農業用水にしている。

駄六川とは、六駄の荷物を積める底の浅い高瀬舟が出入り出来るという事から、その名が付いたという説もある。

4. ハセンドウ坂・池ノ坂・仁右衛門坂

ハセンドウ坂は戦いに敗れた村重方の兵が落ち延びて行った道と言われ、破戦道とも呼ばれていた。この坂に通じる道は今は線路により分断されているが、なぜか線路沿いにガードレールが残っている。

その後池ノ坂を上がり有岡公園から仁右衛門坂まで歩くが、参加者から坂の上から下を見るとその高低差が良くわかるといった声もあった。



5. 杜若寺

杜若寺は伊丹で最も古い墓があり江戸時代は刑場で、遊郭で心中した男女が三日間晒されたという話もある。又、墓地内には梶曲阜の墓や、頼山陽撰並書による大塚鳩斎の墓碑がある。

6. 鶴塚砦

惣構南端の古墳を利用した砦である。有岡城攻めではこの砦に雑賀衆が陣取り、織田勢を得意の鉄砲で苦しめたそうである。この中には

立ち入ることが出来ないので隣接の駐車場で鬼貫と曲阜句碑の説明があった。

7. 有岡公園文学碑

公園には山本東瓦から酒と魚を送ってもらった蕪村の礼状や、曲阜の松尾芭蕉の奥の細道を真似て自分も旅に出たこととか、西鶴の伊丹の酒を褒め称えた句碑があり、説明を受けながら見て回った。

8. 正覚寺

最後に正覚寺に向かう。正覚寺では本殿に上げてもらい、前住職より



講話を頂いた。高低差に關係ある話として天文年間に猪名川の氾濫により、伊丹段丘下の下市場村が流され、多くの死者が出たが下流の田能にその供養塔があるとの話もあった。

また、中国の二十四孝物語の孟宗の竹の子の話と、郭巨の黄金の釜の話が彫られている欄間、山口太乙の寄付による花丸天井を拝見させて頂き、予定通り 12 時に終了し解散した。

(内橋 記)

屋外研修（歴史会・土日班 共催）

尼崎城から寺町を巡る

11月15日(金)9時50分、阪神尼崎駅北側噴水前に集合。

早朝は冷え込んでいましたが、次第に暖かくなり、青空の広がる良い天気となりました。参加者は13名。土日班の所属であり、尼崎ボランティア・ガイドの会でもご活躍の浮田会員のガイドのもと、午前中は尼崎城を、午後からは寺町を訪れました。

駅の北側からはお城は見えません。阪神尼崎駅を南側に出て東へ



進み、スロープを少し上がれば尼崎城が街を見守っているかのように姿を見せます。庄下川に架かる橋を渡り、お城の正面へと向かいました。

尼崎城は、元和3年(1617年)江戸幕府の命により今の大津から入部した、築城の名人といわれた譜代大名の戸田氏鉄(とだうじかね)によって築城されました。戸田氏、青山氏、松平氏が藩主を務めましたが、明治維新後に廃城となり、地上部分の遺構はほとんど残っていませんでした。再建にあたって旧ミドリ電化(現エディオン)を創業した阿保詮(あぼあきら)氏が、建設費用の10億円以上を負担されたことも話題になりました。

再建された尼崎城は、江戸中期の『尼崎城分

間(ぶんげん)絵図』などを基にして建てられた鉄筋コンクリート造りのお城です。外観は4層の天守ですが、石垣の中に1階を設けて5階建ての建物となっており、『4層5階建て天守』という少し変わった構造になっています。

2階から4階までは唐破風、千鳥破風の屋根飾りをつけていて、屋根の棟の両端には火除けとして鰐が据えられています。非実用的で装飾的な意匠の美しい天守の姿は、権力の象徴であると同時に江戸時代の太平の世を象徴しています。

受付を済ませ(入館料500円)5階の『わがまち展望ゾーン』から見学をスタートし、各階の展示を見学や体験をしながら1階まで降りて行きました。

各階にはギャラリーゾーンや、お姫様や忍者に変身できるなりきりゾーン、巨大スクリーンのVRシアターなど趣向を凝らした展示が盛りだくさんで、尼崎の歴史やお城の話などをしながら約1時間半滞在しました。



駅前で昼食を済ませ、午後からは寺町へ。ここからは9名で巡りました。

近世の城下町で、寺院が集中している地域を寺町といいます。

阪神尼崎駅から徒歩3分程度、市街地の中

心部にある尼崎の代表的な歴史空間である寺町は、約3.9ヘクタールの地域に11カ寺が軒を連ね、城下町の面影を伝えています。

元和3年に戸田氏鉄が尼崎藩主として尼崎城を築城する際、同時に城下町の整備を進めました。城を中心として東西に町場が



本興寺 開山堂

整備され、城郭建設の予定地にあった寺院、中世以来町場にあった寺院、戸田氏入部に従って大津から移ってきた寺院も寺町に集められました。以来約400年、寺院の区画は当初とほぼ変わりない姿を残しています。

寺町の中には国指定文化財が7件、県指定文化財が5件、市指定文化財が14件もあります(平成19年12月末現在)。普段は見ることができないものもありますが、今回はガイドをしていただいた浮田さんに貴重な写真資料をご用意いただいて、襖絵や龍の天井絵や仏様のお姿などを見ることができました。また、11月3日(日)に本興寺の虫干会で寺宝が一般公開された際は、最近の刀剣ブームをうけて日本刀好きの刀剣女子達が国の重要文化財である『太刀数珠丸(たちじゅずまる)』を見るために訪れ、大変賑わったというエピソードも伺いました。

どのお寺も美しく整備されていて、屋根瓦や鬼瓦といった外観の装飾も各寺院で違いがあり、見応えがありました。



定例会研究発表レポート

山陰の戦国～永遠のライバル吉川元春と中山鹿介～

11月の定例会で土日グループの竹中稔氏が、戦国時代(16世紀中頃)の山陰地方で霸権を争った出雲(島根県)の尼子氏と安芸(広島県)の毛利氏についての研究発表を行いました。なかでも毛利元就の次男・吉川元春と尼子氏の若き重臣・中山鹿介は、山陰を舞台に激戦を繰り返しました。



中山鹿介の生き様を表す「我に七難八苦を与え給え」という有名な逸話があります。何度敗れても尼子再興のため逆境に立ち向かいました。しかし、外交力で勝った吉川元春の前に敗れ、播磨上月城で生涯を閉じました。そのライバル同士の足跡を説明されました。

(藤原 記)

寺町を見学後、尼崎戎神社を通り抜けて阪神尼崎駅に戻り解散しました。好天に恵まれ、また平日ということもあって比較的空いており、どちらもゆっくりと見学することができました。江

戸時代の尼崎の街並みや人々の生活を想像しつつ、楽しく過ごすことのできた一日でした。

(森川 記)

屋外研修（会員有志）

加茂井をたどり川西池田駅まで

快晴に恵まれた11月29日、加茂井をたどってJR川西池田駅までの散策に、17名が猪名野神社に集合しました。散策順序は以下のとおりです。猪名野神社～伊丹緑道～白髭稻荷神社～春日神社～鴨神社（加茂遺跡）～川西市文化財資料館～JR川西池田駅

加茂井

加茂井は17世紀中頃につくられ、猪名川の絹延橋のやや上流から取水、川西市および伊丹市の耕作地に用水を供給する灌漑用水路です。

都市化が進んだ現在ではJR線より上流側は大部分が覆工されています。川西市内のJR線より南側にはイチジク畠、耕作地があり、水路は用水を供給するため複雑に分岐しています。

しかし伊丹市内に入ると耕作地はほぼ消滅しており、灌漑用水路としての役割は終了しています。

伊丹緑道および伊丹段丘

緑道はもともと加茂井が通っており、今はこれに蓋掛けして歩道になっています。灌漑用水の需要がなくなった現在は通水されていません。国道171号線高架下で加茂井は駄六川と交差、用水は駄六川に流入します。しかし用水の下流側取水口は駄六川の水位より高いため、加茂井には流入しません。



白髭稻荷神社前を流れる加茂井

緑道を過ぎて臂岡天満宮の東側傾斜地にへばりつくようにある白髭稻荷神社の前を水路は通過します。

北へ進むにつれて標高を増す伊丹段丘の裾を加茂井は流れています。



伊丹・川西市境界付近を流れる加茂井

春日神社

川西市最南部の久代の台地上にある神社です。神社の創立については不明ですが、室町時代の『久代村古記録』にすでにその名が見えます。覆い屋内の本殿の規模は小さいながらも、様式・手法から江戸時代初期のものと考えられ、県の指定文化財になっています。細部にわたって伊丹市の鴻池神社本殿と似ており、この地方の特色をあらわしていると言えます。また本殿前の瓦製狛犬も、模様や表情などから江戸時代初期の造形物と考えられ、市の指定文化財になっています。

「かわにし文化財めぐり」川西市教育委員会より

加茂遺跡と鴨神社

加茂遺跡は、猪名川を見下ろす標高約40mの台地（伊丹段丘）の北東端にある、旧石器から平安時代にかけての集落遺跡です。周囲を最明寺川がめぐる大変見晴らしの良い場所にあります。

明治44年（1911）、台地東側の崖下から銅鐸

[通称「栄根(さかね)銅鐸」]が偶然見つかり、大正時代に弥生土器や石器の散布が報告されたことで遺跡の存在が明らかになりました。加茂遺跡の最盛期は弥生時代中期で、その頃の集落の特徴は以下のとおりです。

- ・大規模であること 東西約 800m、南北約 400m、約 20ha の規模で最盛期にはおよそ 500 人が居住していたと考えられる
- ・防御性が高いこと 落差 20m の台地突端の立地に加えて中心居住区を囲む幾重もの環濠と入口通路崖斜面の斜面環濠、外濠などで集落を防御していた。

また加茂遺跡内には平安時代の『延喜式』という文献に名前が見える鴨神社(延喜式内社)



鴨神社本殿前にて

ぶらり歴史散策

寺内町 小浜宿を訪ねて

宝塚の小浜地区は 15 世紀末に浄土真宗の毫摶寺が建立され、その寺内町として発展しました。江戸時代には大阪・京都と有馬・西宮を結ぶ交通の要衝となり、宿場町、大工・左官の町、酒造りの町として栄えました。現在も当時の歴史資料が至る所に残されています。

暑さが少し和らいだ 10 月、会員有志(7 名)が集まって、小浜の町並みを歩きました。首から上の病気にご利益があるといわれる「首地蔵」を訪れた後、小浜御坊といわれる「毫摶寺」で、木曜班の亀井さんから小浜寺内町の概要を説明していただきました。



その後、大堀川沿いの「いわし坂」を通り、宝塚市内に残る最古級の民家「旧和田家住宅」へ。旧米谷村の庄屋だった家屋には数多くの古文書が残されていて、その一部が展示されています。

最後に訪れた「小浜宿資料館」の庭で持参した手弁当をいただいた後、歴史散策は終了となりました。

(金川 記)

があり、この時代にすでに神社があつたことが分かります。

全国的にも重要な遺跡であるということから平成 12 年(2000)、鴨神社の境内地とその周辺の一部が国の史跡として指定を受けました。

栄根(さかね)銅鐸

銅鐸としては最末期の形式でおよそ 1800 年前、高さ 114cm の全国有数の大型銅鐸です。実物は東京国立博物館にあり、川西市文化財資料館にはそのレプリカを展示しています。



加茂遺跡の近くにある川西市文化財資料館を見学して最明寺川に戻り、JR 川西池田駅前で屋外研修は無事終了しました。

(松田 記)



はじめに

寺内町とは浄土真宗系の道場、寺院を中心に濠、堀、溝、天然の河川を利用、囲郭された自治都市と定義づけられている。

尼崎の大物に建設された長遠寺・本興寺など、日蓮、法華宗寺院中心の寺内町が存在したことは歴史的観点からも事実であるから、浄土真宗寺院中心のという表現はいささか正しくない。

浄土真宗系、日蓮系の囲郭の自治都市と主張する学者の説も首肯できる。しかし、寺内町の姿をほぼ形成当時のまま存在するのは浄土真宗系の寺内町で、日蓮宗・法華宗系の寺内町は尼崎より以前の時代から京都にも存在し、繁栄していたとも伝えられているが、残念ながら現在その姿を留めていない。また、極論すればその痕跡すら京都も尼崎も特定できない。

寺 内 町

浄土真宗系寺内町（河内の各地に造られていた）は、信長と11年に及ぶ戦いで和睦した石山合戦のイメージが先行していて、石山本願寺を中心とする寺内町を除き、他の寺内町は最初から公権力の保護があったと歴史学者は指摘する。しかし、それは皮相的な見方で、その保護は権力者の便宜的なものであった。つまり、当時の権力者は寺内町の繁栄を見て禁制を布いたのである。戦国の世では何時支配権を失うか分からないので、他の勢力が侵攻するより先に、治外法権の禁制を布いて、その見返りに矢銭（軍事費）を要求した。ここで浄土真宗系の寺内町を考察すると、歴史的事実が浮かび上がってくる。

本願寺中興の祖 蓮如上人が築いた吉崎御坊中に形成されたのが寺内町の始まりである。蓮如上人は天台宗延暦寺の僧兵から迫害を受け、京都を後にして吉崎（現在の福井県金津町）に逃れた。この地の門徒衆の要望により、文明3年（1471）に道場を建設し、それが発展して吉崎御坊となり、北陸地方が浄土真宗教化の中心地に発展した。この地の元士族の家柄の方々でも浄土真宗の檀家が割に多く、蓮如は北陸に浄土真宗の王国を築いた。



吉崎御坊跡(福井県)に建つ
蓮如上人像

また、蓮如は河内の門徒衆の要望により河内の各地を巡り、門徒衆と親しく交わった。八尾、久宝寺には文明2年（1470）に訪れ、真宗道場を設立した。この道場が後に寺号を西証寺と呼称し、更に顕証寺と改め、天文10年（1541）久宝寺寺内町が誕生した。

蓮如上人の偉大な功績は石山本願寺の開創にある。太田牛一は信長公記（巻十三）に、「そもそも大坂はおよそ日本一の境地なり、その子細は、奈良・堺・京都に程近く、さらに淀・鳥羽より大坂城戸口まで舟の通い道にして…」と書いている。つまり、大坂が日本一の境地である理由として、堺などに近く、また京都の外港である淀・鳥羽と水路で結ばれていること、摂津・河内の河川交通が取り巻いていること、大阪湾には中国（明）・朝鮮・南蛮船が出入りし、全国交通の中心都市であることなどを上げているのである。

信長はこの太田牛一のルポルタージュに所有欲がいやが上にも高まった。しかし、治外法権の禁制を布き、多額の矢銭をたびたび本願寺に要求していたので、信長はあからさまにその土地を譲れとは言えなかった。第10世顕如は頑として信長の要求に従わず、11年にも及ぶ戦争になったのである。

塚口寺内町

寺内町と寺町あるいは門前町との大いなる相違点を探るのに、恰好の場所が塚口の寺内町と尼崎の寺町で、これ程最適なロケーションは見当たらない。塚口寺内町は第十代性曇（せいどん）上人が応永10年（1403）にこの地を訪れた際、地元の門徒衆の要望に応え、一宇を建立するから始まる。その寺院が塚口御坊で、仏光寺から分離独立、興正寺派または興正派の寺院となり、現在は正玄寺が御坊を受け継いでいる。

久宝寺、富田林、今井町など有名寺内町は、鎌倉から室町末期時代の建築様式を保っている民家が今なお多く見られる。しかし、塚口寺内町には形成当時の建築様式を残す住居は少なく、わずかに尼崎都市形成建物に選ばれている東門に近い矢野邸と北門に近い岸本邸だけが当時の建築様式の面影を残している。北部から東南にかけて河川を利用し、囲郭された惣構の街並みは自治都市の研究モデルに適している。



塚口寺内町の正玄寺

東門を守るかに見える矢野邸と北門を守るかに見える岸本邸の両家はこの塚口寺内町の中核で、大きな役割を果たしていたと思われる。現代でも土地の所有面積は広く、両家は菰樽の菰の製織、銘柄、社名を刷り込むなどの生産を行っており、全国シェアは両社で90%をしめる。



塚口寺内町の東門の溝
北門、南門を溝、小川が囲郭している。西側は阪急伊丹線開通時に埋められたようで遺構は見当たらない。

興正寺派、または興正派に少し触れておくと、末寺は伊丹市北伊丹（旧北村地区）に教善寺がある。浄土真宗10派の中で末寺は多くはない。総数は513カ寺。信者総数4万人である。

興正寺派末寺の寺内町は富田林寺内町が有名で、今日でもその名残を色濃く残している。富田林寺内町は16世紀半ば、興正寺別院を中心に宗教自治都市として発展した。町は直交する道を少しづらした曲げ構造になっている。侵入してきた外敵が遠方を見通せないように作られており、武装兵士が一気に攻め込むことが出来ないようにとの工夫である。

信長が石山本願寺を攻略の際、顯如上人は信長に対して徹底抗戦するように激を飛ばした。「本願寺を守らないものは門徒衆にあらず、又生涯門徒を名乗ることは許さない」と厳しいお触れを出したが、摂津、河内の寺内町は信長と好（よしみ）を通じ、禁制を布いてもらい、顯如の激には呼応しなかった。塚口寺内町も同様の姿勢をとり、村重攻撃の際、信長はここを城として布陣した。畿内の寺内町が顯如上人の激に呼応しなかったのは、願証寺を中心に築かれた長島の寺内町の悲劇が伝えられているからである。

長島（現在の三重県桑名市）での悲劇について、少し触れておく。

元亀元年（1570）11月16日、本願寺顯如の激を受けた長島の願証寺は、侍門徒・河内の坊主門徒・百姓門徒らが長島寺内に集合した。何れも槍や弓で武装し、更に鉄砲隊までが組織され、敢然と信長に挑んだ。

尾張小木江城砦（海部立田村）にいた、信長の弟織田信興は鯰浦（あさりうら）（海部郡弥富町）の城に押し寄せた。激闘数日、死は淨土と心得て、味方の屍を乗り越えて突き進んでくる長島門徒勢に、織田軍は次第に押し戻され、城に閉じ込められてしまった。さらに、門徒た

ちは土壘を登り、壁に取り付き城内に乱入した。織田軍もしきりに反撃したが一揆勢の勢力は強く、信興は自刃のやむなきに至った（信長公記）。

信長の旗本数百人討ち死にし岐阜へ敗走したが、九鬼水軍をはじめとする船団が河内水域を埋め尽くし、長島門徒衆は長島寺内町籠城に追い込まれ、約二万人が餓死した。降伏を申し出た門徒衆が多くの船で長島を後にした途端、織田軍の鉄砲の乱射を浴び、際限なく川へ切り捨てられた。それでもなお7～8百人が川へ飛び込み、織田軍への切り込みを敢行し、大坂に入ることに成功した。

こうした長島での門徒衆の抵抗とは反して、摂津・河内の寺内町では全住民の安全策を優先し、早々と信長と好を通じて禁制を布いてもらい、住民の生命財産を守る賢明な策に転じた。また、一向一揆の牙城とも言われた塚口寺内町も本願寺の激に沈黙した。

付記：『石山本願寺合戦全史』の著者武田鏡村氏によると、「信長は寺内特権を次第に剥奪していくが、寺内の経済と交易圏は保護され、信長の経済圏に組み込まれた。」、「信長は武力の前に屈する寺内町を、そこにある経済力を収奪するために保護するという政策をとったのである。」

付記：門徒衆（雜賀、根来の武装集団）は本気で本願寺を攻めたのではなく、戦っている体裁をとっていた。矢尻を抜いて矢を放ったり、鉄砲に実弾を込めず空砲で戦うふりをした。この人たちを“白犬衆”といった。城を射ぬ、という音合わせでこう呼んだ。（石山本願寺全史より）

寺町（尼崎城を守るために造成された）



尼崎文化協会顕彰碑によれば、戸田左衛門氏鉄は近江の国膳所より、5万石で尼崎へ転封され、美濃国大垣へ10万石で転封されるまで 18 年間(1617～1635)尼崎に在任した。幕府の命を受け海に臨んだ美しい新尼崎城（またの名琴浦城）を築き、寺町を含む城下町を建設した。予定地にあった寺や大物に散在していた寺院を集め、寺町を形成した。

城下町には律宗大覚寺が位置し、その近傍には法華宗本興寺、日蓮宗長遠寺などが立地した。そのほか氏神貴布禰（きふね）神社や浄土真宗大物道場（小型ながら寺内町を形成していた）なども近くにあり、それぞれ寺内町や門前町などが付属する複合的な都市であった。

新尼崎城の築城により、城下町が造成され 20 力寺（現在は 11 力寺が集められて、寺町が造成された。目的は寺院の力を弱めるとともに、巨大な建築物群である寺院を配置して城を防御するためであった。また、宿泊施設としての利用も考えられる。寺町は、権力者の都合で築かれたものである。



本興寺

付記：津市高田一身田の専修寺は嘉禄6年（1226）親鸞の創建とある。浄土真宗系では最も古い寺内町で、堂宇はすべて国宝である。

「神戸北町歴史散歩の会」(13名)からガイドの依頼を受けた。依頼書には「12月12日(木)・9:45-11:45・Aコース」と書かれている。

2名でガイド可能な人数だったのだが、木曜班から24期生5名全員と筆者がガイドを担当した。

集合場所に指定された阪急伊丹駅でお出迎え。参加者は申込の13名から10名に減少していく。JR伊丹方面へ歩き、有岡城跡で最初のご挨拶をした。



「神戸北町歴史散歩の会の皆さん。ようこそ、伊丹へ。本日は我々6名 ONE TEAMで、ご案内をさせていただきますので、よろしくお願ひします」

スケジュール・見学スポット等を説明し、有岡城跡から歴史散歩を始めた。有岡城跡(末次)、荒村寺(佐々木)、本泉寺(新井)、墨染寺・法厳寺(古川)、猪名野神社(玉浦)、旧岡田家住宅(槇)の順番で、ガイドの担当を割り振った。途中から日が差しはじめ、冬場の歴史散歩としては恵まれた天候となった。

荒村寺では門前にある案内板の前でガイド。鬼貫の句につき説明の後、寺の門が開いていたので、中に入り鬼貫句碑を見学することができた。

本泉寺では山号や開基など難しい漢字をパネルで示しながら、分かりやすく説明し



た。墨染寺の前では、南へ向けて下がっている地形について、熱く語る。法厳寺については、担当者が事前

に寺の許可を取得しており、境内に入った。クスノキの巨大さを実感した。

猪名野神社では神社概要、鬼貫句碑、東側に向かって下がっている地形などについて案内。旧岡田家住宅では建物の中だけではなく、お客様を外に誘導して、虫籠窓や入口にある杉玉についてまでガイド。酒蔵で酒槽による酒搾りについて説明をして、全体のガイドを終えた。



依頼者10名の方々には酒蔵の椅子に着席願って、最後のご挨拶をした。

「本日は2時間お付き合いくださいまして、有り難うございました。ここで、皆さんに告白することがございます。末次を除く5名は今年の入会者で、今回が実質初めてのガイドでした」



散歩の会から「おおおお」という声が洩れた。その歓声には、「とても初めてだとは思えませんでしたよ」との賛辞が含まれているものと勝手に解釈して、次のように問いかけた。

「もう全員免許皆伝でよろしいでしょうか?」

10名全員が大きな拍手で応じてくれた。

任務を終えて、昼食をしながらの反省会。新ガイド5名の背中をそっと押したのである。「月1回歴史散歩をしている目の肥えたお客様から『免許皆伝』を認めてもらったので、これからは自信をもってガイドしてくださいね」と。



【町の小さな文化財 第20回】 北村水源池（北伊丹5丁目）

旧西国街道がJR福知山線を渡り、猪名川堤防につき当る手前に伊丹市北村水源池がある。市内に上水を供給している現役の施設であり、現在は昭和37年(1962)に建てられた瀟洒な平屋の設備棟がある。

伊丹は地下水に恵まれ酒造が盛んであったが却って上水道の建設は遅れ、給水開始は昭和11年(1936)である。ほとんどの井戸が飲用に適さない尼崎がすでに大正7年(1918)に上水道による給水を開始していたとの対照的である。

当時上水道建設にあたり実施した調査の結果、猪名川沿岸に潜流する伏流水が水量が豊富で水質もよく、これを水源とすることが適當との結論が得られた。伏流水を汲み上げる水源井は北村字南田台坊(でんだいぼう)に設けることになった。

ところが猪名川から取水する伊丹・尼崎の各井組は、これが灌漑用水に影響するのをおそれて苦情を持ち込んだために事は難航した。そこで毎年6月から9月までの用水期には水利関係者の必要に応じて、伊丹町は上水道に使用するのと同量の水を鑿井(さくせい)によって関係井の猪名川上流に放流すること等の条件で折り合いが付き、ようやく事業が進展するに至った。昭和11年に給水を開始したが、初年度の上水の普及率は全戸数の27%に過ぎなかった。

※鑿井：地下水を採取・探査するため井戸を掘ること。(ボーリング)

—伊丹市史第三巻参照—

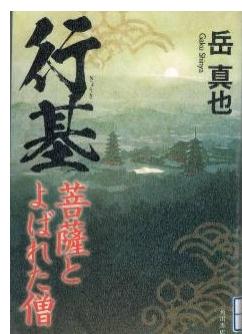
(松田 記)



お薦めの本

「行基 菩薩とよばれた僧」 岳真也

行基は668年、河内国(現在の堺市)に生まれ、15歳の時に得度を受けて出家し、飛鳥寺・薬師寺で道昭・義淵らに学びました。その後諸国をめぐり、布教活動とともに貧しい人を助けるための布施屋(無料宿泊所)を作り、道路・橋・灌漑施設の建設に努めました。アフガニスタンで長年医療活動をしながら用水路建設に携わり、昨年テロの銃弾に倒れた中村哲氏の活動はこうした行基の社会事業と重なるものを感じます。



行基は朝廷からの厳しい弾圧を受けながらも、最後に東大寺大仏の建立に協力し、日本最初の大僧正を授けられます。この本は幼年期から入寂までの行基の人生を描いた、平成31年に発刊された小説です。

(金川 記)

Quiz

伊丹文化財クイズ

6つの俳句は文学碑になっている上島鬼貫の作です。

A～Fの空欄に下記に示した文字から選んで、完成させてください。

- | | |
|-------------------|---------------------|
| ・月花を 我が物顔の (A)かな | ・秋ハ物の (B)鳥は いつも鳴 |
| ・骸骨の 上を粧て (C)哉 | ・月はなし 雨にて(D)は しほれたり |
| ・(E)の すべてころなし 虫の声 | ・おもしろさ 急には見えぬ (F)哉 |

【蟋蟀 すすき 骸骨 花見 霞む 枕 桜 萩 月夜 行水】



※答えは12ページ



一条の戻り橋・二条の生菓屋・三条のみすや針と、京のわらべ歌にも歌われた、「みすや針」は江戸時代に日本全国中の針の代表として知られていた。

三条大橋に近くの河原町三条に「御簾屋」があった。「京師ならではこれなく」と重宝がられて、全国各地から特に関東へかけて、販路は目覚ましく広がった。豊臣秀吉も日吉丸時代に清州で、木綿針を仕入れて売り歩いたといわれている。当時みすや針の工場は、伏見に有ったと伝えられている。



平安時代の中期には「播磨の針」が名産品であったが、鎌倉時代には、京の「姉小路針」が名を成してきた。これを受け継いだのが「みすや針」であった。

みすやは元「御簾屋御針処」という御所の御用役を務めた、初代福井勝秀が「御簾屋」の名を後西天皇から賜り、「みすや針」と名付けた。福井勝秀は「福井藤原勝秀伊予守」として苗字帯刀を許されていた。

活動記録 (11月～1月)

【定例会】・11/12（火）・12/10（火）・1/14（火）

【案内ガイド】・11/9（土）文化財保護啓発事業史跡ガイド「惣構南部の高低差を体験」

・12/1（日）郷町館（ひょうご北摂体験ツアー 大阪市）・12/12（木）Aコース（神戸元町歴史散歩の会 神戸市）・1/23（木）Cコース（NPO法人大阪府北部コミュニティカレッジ 大阪府）

【歴史ロマン体験学習支援】・11/16（土）ステンドグラスに挑戦しよう・12/14（土）クリスマスツリーを作ろう・1/18（土）鋳造技術で勾玉を作ろう

【市内文化財の一斎清掃】

11月23日（土）、文化財保護活動啓発事業の一環として市内文化財の一斎清掃が行われました。当会から会員18名が有岡城跡、伊丹廃寺、御願塚古墳の3か所に分かれて参加しました。



今後の予定 (2月～4月)

【定例会】・2/11（火）・3/10（火）・4/14（火）

【案内ガイド】・2/1（土）Aコース（TMC歴史散歩の会 和泉市）・2/5（水）岡田家、石橋家（NPO法人シニア自然大学校シニア CITY カレッジ 大阪市）

【歴史ロマン体験学習支援】・2/15（土）粘土に挑戦しよう・3/7（土）藍染めに挑戦しよう

【どんぐり座公演】・2/27（木）荒村寺「野間の1本松いたずら狐」・「桜物語」

文化財ボランティア養成講座

第25回文化財ボランティア養成講座は1月14日（火）から始まりました。

講座内容は下記のとおりです。

- ・1/14（火）オリエンテーション・1/21（火）講座「伊丹城の構造」
- ・1/28（火）講座「伊丹の寺院について」・2/4（火）講座「発掘調査から見た有岡城跡の縄張り」
- ・2/18（火）講座「江戸時代の伊丹のお酒造り」・2/25（火）史跡めぐり（準備）
- ・3/10（火）史跡めぐり（下見）・3/14（土）史跡めぐり（本番）

(クイズの答え)

(A) 枕 (B) 月夜 (C) 花見 (D) 荻 (E) 行水 (F) すすき